



長照寺だより

わげんあいご 和顔愛語

浄土真宗本願寺派(西本願寺) 摂取山 長照寺 静岡県三島市徳倉1195-817 電話055-988-4242
URL <http://cyoshoji.or.jp> E-mail: info@cyoshoji.or.jp



静岡東組「親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年慶讃法要」・
「門信徒のつとめ(静岡東組公開講座)」

期日:2024(令和6)年12月7日

会所:善教寺・みしまプラザホテル



「仏法に深く帰依した人にわずかばかりの間違ひがあるのを見つけたときは、
あの方でさえこのように間違ひを犯すことがあると思って我身を深くつつし
まなければならない」

(蓮如聖人御一代記聞書)

「出遇い」



住職 本持愚山

人生には数多くの出遇いがあります。夫婦、親子、兄弟、親戚、自分を取り巻く環境の中にと。ある人類学者が職業別にも差はあるが、一般的な出遇いはこの世を終わるまでに一体何人位の人々と会話を交わすか統計を取ってみたそうです。するとそこで意外と少ない数値が出たようです。ここで問題は会話を交わすという事ではないでしょうか。只単に人と会うと考えたならば大変な数になるでしょう。しかし我身にとって出遇いが、人生に於ける歩むべき道にどれ程の影響を与えるのか考えてみた時、ほんの数人ではないでしょうか。

宗祖親鸞聖人は「法然聖人」との出遇いを「よきひとのおおせをいただいて信ずるほかに格別なわけはありません」『歎異抄』とその思いを伝えられ、お念仏の道をひたすら歩まれたお方です。要するに「よき師」お一人だったと言えるでしょう。

話題をもとに戻しましょう。「会うは別れの始めなり」と言うことわざがあります。仏教用語の中には「愛別離苦」「会者

定離」と示され、別れの現実を、悲しみの姿や、楽しくても別れなければならぬ姿として表わしています。それだけに遇（あ）う事ができたと言う「縁」をできるだけ大切にしたいものです。

私事で恐縮ですが、座右の銘として大事にしている名言があります。それは「金を遺すは下なり、仕事を遺すは中なり、人を遺すは上なり」（後藤新平師）です。師のお言葉は私の人生観を変えたと言ってもいいでしょう。直接お会いできなくても、良き師に出遇えたと思います。「人を遺すは上なり」のお言葉は人生道を歩む者として指針となりこれからの「出遇い」も更に尊いご縁として生き抜きたいものです。

ここで、長照寺にとりましては痛手のご報告を致さねばなりません。長照寺衆徒である、藤澤直樹君が下段のご挨拶の如く、方向転換を致す事となり、まさに「愛別離苦」です。新天地のご活躍を念じつつ、心より「ご苦勞様でした。有り難う」を申しあげます。

称名

ご挨拶

藤澤直樹

このたび令和七年三月末をもちまして長照寺を退職させていただきました。四月より伊東市にありますが光顔寺というお寺にて、住職代務を勤めさせていただくこととなりました。

平成十七年十二月より長照寺に勤めさせていただき、当初は右も左も分からず至らぬ点多々あったことと思いますが、長照寺門信徒の皆様より暖かくご指導・お育てをいただき、多くのことを学ばせていただきました。心より感謝申し上げます。

今後は長照寺門信徒の皆様よりいただいた想いを胸に刻みつつ、光顔寺の住職代務としてお念仏に生きる喜びを皆様と共にさせていたいただきながら、お寺の発展に力を尽くしたいと思っております。

あらためまして十九年と三か月、多くのご縁をいただき本当にありがとうございました。

本来であれば直接皆様にご挨拶を申し上げるべきところ、寺報でのご挨拶となりましたこと、お詫び申し上げます。

末筆で失礼ながら、長照寺門信徒の皆様におかれましては、季節の変わり目でございますので、くれぐれもご自愛いただきますよう、心から念じ申し上げご挨拶とさせていただきます。

合掌

活動報告 令和六年度下期

長照寺

「親鸞聖人御誕生八五〇年・
立教開宗八〇〇年慶讃法要」
「報恩講」 令和六年十一月十七日

ご講師 小柴 隆幸 師

(隆照寺住職・本願寺派布教使)

浄土真宗の門信徒として
最も大切な法要です。
親鸞聖人のご遺徳を偲び、
生きる「力」をいただきます。



第五十六回

門信徒会親睦ゴルフコンペ

令和六年十一月二十九日
：レンブラントゴルフ倶楽部御殿場

優勝 中山 和明さん
準優勝 小坂 正義さん
第三位 知公 隆一さん



静岡東組

「親鸞聖人御誕生八五〇年・立教
開宗八〇〇年慶讃法要」門信徒の
つどい（静岡東組公開講座）

令和六年十二月七日

：善教寺・みしまプラザホテル

ご講師 三浦 明利 師

あかり

※写真は表紙
にも掲載



境内清掃作業

令和六年十二月八日

新しい年を迎えるに
あたり、
感謝・感謝。



年越しの鐘

令和六年十二月三十一日

百八ツばかりの煩惱
ではないことを知り、
これからは少しずつ
出していきましょう。



修正会

令和七年一月四日

心新たに出発。
今年こそはと
毎年思っている
自分がいた。



東京教区仏教壮年会連盟

第四十二回結成記念日研修会

令和七年二月九日
：築地本願寺

ご講師

義本 弘導師



恵みのお参り（七五三のお参り）

令和七年二月十二日

本持 唯葉（ゆいか）さん

※写真は4ページに掲載

春季彼岸会法要

令和七年三月二十日

ご講師

本持 愚山

住職



恵みのお参り（七五三のお参り）

令和七年三月二十八日

鈴木 結依さん

さくらさん

みつきさん

※写真は4ページに掲載



今後の活動予定

令和7年(2025)

4月19日(土)	釋尊降誕・花まつり	本 堂
4月21日(月)	静岡東組組会・総代研修会	未 定
5月17日(土)	門信徒会定期総会	本 堂
未 定	門信徒会親睦ゴルフコンペ	未 定
7月27(日)	境内清掃作業	境 内
8月13日～15日	合同盆法要(全8回)	本 堂
9月23日(火)	秋季彼岸会法要	本 堂
10月 日()	寺報(第54号)発行	

※各行事は、予定ですので、その都度、寺から案内を送付します。

※定例法座は毎月第3土曜日 午後1時より本堂にて開催。

※その他に親睦の集いを募集・計画中。

「日頃の忙しさから解放されて
気持ちの軽くなる自分を発見
できるかもしれません。」

恵みのお参り(七五三のお参り)



鈴木 結依・さくら・みつきさん



本持唯栞(ゆいか)さん

編
集
後
記

☆お寺からのお便りは、家族皆さん必ず読んで頂く習慣をつけましょう。

☆お寺は「よろず相談処」です。日頃悩んでいる事がありましたら、何でもご相談ください。

☆次回寺報は、2025年4月発行予定です。

ご意見・ご要望は、寺務所まで

〒411-0044 三島市徳倉1195-817 TEL・FAX 055-988-3900

編集人=菊澤・斎藤・園田・杉山・船坂